

データ プラットフォーム バイヤーズガイド

ソフトウェア プロバイダーと製品の査定

ソフトウェア
プロバイダー
レポート

***iSG** Research

Licensed by:

InterSystems®
Creative data technology



データ プラットフォーム

今日の企業、そして社会全体がデータ プラットフォームに完全に依存していると言っても過言ではありません。データ プラットフォームがなければ、ビジネス情報を記録、処理、保存する際に、企業は紙の書類による記録、時間のかかる手作業、そして物理ファイルからなる膨大なライ

“

データ プラットフォームがなければ、ビジネス情報を記録、処理、保存する際に、企業は紙の書類による記録、時間のかかる手作業、そして物理ファイルからなる膨大なライブラリに頼らざるを得なくなります。

ブラリに頼らざるを得なくなります。データ運用およびデータ インテリジェンスのためのプラットフォームとツールによって補完されたデータ プラットフォームがなかったとしたら、エンタープライズ アプリケーションや一般ユーザー向けアプリケーションも、ソーシャル メディア、デジタル コマース、人工知能も存在していなかったでしょう。

ISG Research ではデータ プラットフォームを、企業全体のデータの保存、処理、分析、提示を体系化して管理する環境を提供するもの、と定義しています。ビジネスの運営に使用される業務アプリケーションだけでなく、ビジネスを評価するための分析アプリケーションもサポートし、これらのアプリケーションを有効に活用できるようにするデータ プラットフォームは、運用効率において重要な役割を果たします。

データ プラットフォーム市場は、1980 年代以降、リレーショナル データ モデルとリレーショナル データベース管理システムによって独占されてきました。しかし今でも、

階層モデルなど、リレーショナル以前時代の非リレーショナル データ モデルが使用されています。またこの数十年で、キー値、ドキュメント モデルとグラフ モデル、およびデータ処理フレームワークとオブジェクト ストレージを使用した、非リレーショナル データ プラットフォームの利用も広がっています。

すべてのユースケースに対応できるアプローチというものはありません。そのため、企業はさまざまなアプリケーションに伴う幅広い要件を満たすために、各種のデータ プラットフォームを使用しています。これまでは、ほとんどのデータ プラットフォームがオンプレミスにデプロイされていましたが、クラウド インフラストラクチャ上にデータ プラットフォームをデプロイしたり、マネージドクラウド サービスを介してデータ プラットフォームの機能を利用したりする企業が増えています。実際、ISG の Market Lens クラウド調査に参加した回答者の半数以上 (58%) は、大多数のデータ プラットフォームでクラウドを使用しています。

あらゆるデータ プラットフォームの中核的な役割は、収集した関連データを保存し、管理することです。通常、データの保存と管理に対処するのは、データ永続化、データ管理、データ処理、および保存データへのアクセスと操作を可能にするデータ クエリ機能を備えたデータベース管理システム (より一般的には単に「データベース」と呼ばれます) です。クラウド コンピューティング環境の導入は、データ永続化レイヤーとしてのオブジェクト ストアの普及にもつながっています。さらにこの環境には、Apache Spark、Apache Presto、Trino などのクエリ エンジンによっ



て、データ プラットフォームに求められるデータ管理機能、データ処理機能、データ クエリ機能が追加されます。

データ プラットフォームは、こうした中核的な永続化、管理、処理、クエリの機能だけでなく、さまざまな役割の従業員を対象とした機能も提供します。具体的には、データベース管理者向け、アプリケーション開発者向け、データ エンジニア向け、データ アーキテクト向けの機能です。これらの役割は事業部門のユーザーやマネージャーではなく、一般的には技術部門に属するものです。そうとはいえ、データ プラットフォームでサポートする必要がある、担う責任や求める機能要件がそれぞれに異なるユーザーの範囲は、ますます広がっています。

データ プラットフォームを選択する際には、何よりも先に検討すべき基本的な考慮事項があります。それは、データ プラットフォームでサポートするワークロードが、主に業務に関連するものなのか、それとも分析に関連するものなのかという点です。従来、データ プラットフォーム業界は、業務向けデータ プラットフォームと分析向けデータ プラットフォームに区分されていました。業務向けデータ プラットフォームは、ビジネス ユーザーや意思決定者がビジネスを運営するために使用するアプリケーションをサポートするためにデプロイされるものです。分析向けデータ プラットフォームは通常、データ アナリストやビジネス アナリストがビジネスを分析するため

に使用するアプリケーションをサポートするものです。業務向けデータ プラットフォームのワークロードとしては、財務、運用およびサプライチェーン、営業、人材管理、カスタマー エクスペリエンス、マーケティング アプリケーションが挙げられます。一方、分析ワークロードとしては、意思決定支援、ビジネス インテリジェンス (BI)、データ サイエンス、人工知能と機械学習 (AI/ML) が挙げられます。

“

AI を活用して業務アプリケーションをインテリジェントなものにする重要性が増している中、従来は業務向けデータ プラットフォームと分析向けデータ プラットフォームの要件を区別していた境界線が曖昧になってきています。

AI を活用して業務アプリケーションをインテリジェントなものにする重要性が増している中、従来は業務向けデータ プラットフォームと分析向けデータ プラットフォームの要件を区別していた境界線が曖昧になってきています。消費者は、パーソナライズ化やコンテキストに即した推奨によって差別化されたデータ主導型サービスにますます関心を寄せるようになっていきます。従業員向けアプリケーションもこれに追随し、従業員の役割と責任に基づいて対象ユーザーを絞り込むようになっていきます。アジリティに優れたビジネス プロセスへと移行するには、ML によってデータ プラットフォームとアプリケーションの応答性を向上させる必要があります。

リアルタイムの双方向性が必要な場合、データ プラットフォームでこれらのアプリケーションをサポートするために必要となる機能に大きな影響があります。分析ワークロードと業務ワークロードの両方に使用できる汎用データベースは以前からずっと使用されています。その一方で、業務向けデータ プラットフォームからデータを抽出および変換したうえで外部の分析向けデータ プラットフォームに読み込む、従来のアーキテクチャも使用されてきました。こうすることで、互いに悪影響を与えることなく業務ワークロードと分析ワークロードを同時に実行することが可能になり、両方のパフォーマンスを保護できます。



また、分析専用のデータ プラットフォームで使用するアーキテクチャ手法は、クエリ パフォーマンス向上を意図して特化されたものへと徐々に進化しています。インテリジェントなアプリケーションは本質的には業務アプリケーションとはいえ、ML、生成 AI、エージェントを活用してコンテキストに即した推奨、予測、予想などを行う機能を提供するためにリアルタイムの分析処理に依存します。データ主導型の企業は、モデルをオフラインでトレーニングするのに専門家向けの分析およびデータサイエンスプラットフォームを使用していますが、リアルタイムのオンライン予測および推奨に対応する必要がある場合は、ML による推論をサポートする業務向けデータプラットフォームが必要となります。データプラットフォームプロバイダーは 2027 年までには、生成 AI を活用したインテリジェントなアプリケーションの要件を満たすために、業務と分析の両方に対応するハイブリッド型の処理機能の開発を優先するようになるはずです。

過去 2 年にわたる生成 AI の普及によって、データプラットフォームの要件に大きな影響が及んでいます。ベクトル埋め込みの保存と処理に関しては特にそう言えます。生成 AI を活用した自然言語処理 (NLP) やレコメンデーション システムをサポートするために、生データの特徴量または属性を多次元で数学的に表現するベクトル埋め込みが使用されています。ベクトル検索でも、検索拡張生成によって生成 AI の精度と信頼性を向上させることができます。検索拡張生成とは、データベースから事実上正しい最新の情報を表すベクトル埋め込みを取得し、それらのベクトル埋め込みに大規模言語モデル (LLM) で自動生成されたテキストを組み合わせるプロセスのことです。

このデータプラットフォームバイヤーズガイドで目的としているのは、単一または複数のデータプラットフォーム製品のいずれかによって、各ソフトウェアプロバイダーがどれだけ効果的に業務ワークロードと分析ワークロードの両方に対応しているかを包括的に明らかにすることです。そのために、このガイドでは業務関連と分析関連の幅広い機能を取り上げ、業務向けデータプラットフォームの分析処理機能と分析向けデータプラットフォームの業務処理機能の両方を検討します。査定では、対象となる機能が、ソフトウェアプロバイダーの単一のサービスで提供されているのか、あるいは製品スイートまたはクラウドサービスとして提供されているのかも考慮に入れています。主に分析機能または業務機能のいずれかのみを提供しているソフトウェアプロバイダーについては、別のバイヤーズガイドでの調査報告書で取り上げています。

データプラットフォーム向け ISG バイヤーズガイド™ では、データ永続化、データ管理、データ処理、データクエリ、データベース管理者向け機能、開発者向け機能、データエンジニアリング向け機能、データアーキテクト向け機能の分野で、ソフトウェアプロバイダーと製品を評価しています。このデータプラットフォームバイヤーズガイドで対象とする製品は、汎用のデータプラットフォーム、データベース、データベース管理システム、データウェアハウス、データレイク、またはデータレイクハウスとして販売されていることが要件となります。さらに、その製品の主要なユースケースの目的が、従業員向けと顧客向けの業務アプリケーション (財務、リソース計画、人事、顧客管理/カスタマーエクスペリエンス、電子商取引、サプライチェーンなど) や分

データ プラットフォーム

Market Assertion

データプラットフォームプロバイダーは 2027 年までには、生成 AI を活用したインテリジェントなアプリケーションの要件を満たすために、業務と分析の両方に対応するハイブリッド型の処理機能の開発を優先するようになるはずです。

Matt Aslett

調査、分析、データ担当ディレクター



ISG Research



析ワークロード (ビジネス インテリジェンス、人工知能、データ サイエンス) をサポートすることである必要もあります。

この調査では、業務ワークロードと分析ワークロードの両方をサポートするデータ プラットフォームの主要な要素に対処する製品を提供しているソフトウェア プロバイダーとして、次のプロバイダーを評価しました。Actian、Aiven、Alibaba Cloud、AWS、Broadcom、Cloudera、Couchbase、EDB、Google Cloud、Huawei Cloud、IBM、InterSystems、MariaDB、Microsoft、Neo4j、Oracle、Percona、PingCAP、Progress Software、Salesforce、SAP、SingleStore、Tencent Cloud、Vast Data。



バイヤーズガイドの概要

ISG Research はこれまで 20 年以上、ビジネス アプリケーション、ツール、テクノロジーなどの多岐にわたる分野で市場調査を行っています。ISG Research の本バイヤーズガイドは、あらゆる企業のビジネス要件についての理解を基に、ソフトウェア プロバイダーと製品についてバランスの取れた視点を提供することを目的としています。当社の調査手法と数十年にわたる経験が活か



ISG Research の本バイヤーズガイドは、あらゆる企業のビジネス要件についての理解を基に、ソフトウェア プロバイダーと製品についてバランスの取れた視点を提供することを目的としています。

された本バイヤーズガイドは、ソフトウェア プロバイダーと製品を査定して選択するための効果的な方法となります。この調査で明らかになった結果は、当社の、ある企業が行った査定に基づいてソフトウェア プロバイダーを評価するという包括的な手法に役立つものです。

データ プラットフォーム向け ISG Buyers Guide™ は、1 年にわたって実施した市場および製品についての調査活動をまとめたものです。ここでは、各ソフトウェア プロバイダーのサービスが企業のデータ プラットフォーム ソフトウェアの要件をどの程度満たしているかを査定しています。このインデックスは、情報提供要請 (RFI) をサポートするように構成されているため、ソフトウェア プロバイダーの評価、選択、利用、関係維持に必要となるあらゆる基準を組み込むことにより、提案要請 (RFP) プロセスで使用できます。有効な製品およびカスタマー エクスペリエンスにより、良好で長期的なプロバイダーとの関係を築き、リソースと財務投資から最大の価値を得られます。

本バイヤーズガイドでは、ISG Research が主な 7 つのカテゴリでソフトウェアを評価しています。これらのカテゴリは、ISG Research の専門知識と調査を基に、購入者のニーズを反映するように重み付けされています。7 つのカテゴリのうち 5 つは、適応性、機能性、管理しやすさ、信頼性、使いやすさという、製品エクスペリエンスに関するものです。残りの 2 つはカスタマー エクスペリエンスに関するもので、妥当性と、総所有コスト/投資利益率 (TCO/ROI) というカテゴリです。機能性を構成する要素の 1 つである機能を査定するために、データ プラットフォームのペルソナとプロセスを企業の要件に紐づける、ISG Research バリュエーション インデックス手法とブループリントを適用しました。

当社の見解では、ソフトウェア プロバイダーと製品を効果的に評価するには、単に製品の機能や、プロバイダーのマーケティングおよび営業活動によって創出される可能性のある収益や顧客数を調べるだけでは十分ではありません。この調査の構造は、その見解を反映したものになっています。データ プラットフォーム テクノロジーの選択を誤ると、総所有コストが増大して投資利益率が低下し、企業が潜在能力を十分に発揮できなくなる可能性があるため、包括的な調査に基づくアプローチを取ることが重要であると考えています。加えて、このアプローチは、プロジェクトの開発時間とデプロイ時間を短縮し、自社にとって最適ではない少数のソフトウェア プロバイダーに依存するリスクを排除できます。



ISG Research では、ソフトウェア プロバイダーおよび製品の客観的なレビューは、データ プラットフォーム ソフトウェアやアプリケーションの導入と実装に不可欠なビジネス戦略であると考えています。企業によるレビューには、企業には何が可能で、何が適しているのか、という 2 点の両方に関する徹底的な分析が含まれている必要があります。当社は企業に対し、データ プラットフォーム システムとツールを入念に評価することを勧めていることから、プロバイダーの詳細な分析結果と評価手法として、本バイヤーズガイドを提供しています。



本バイヤーズガイドの使い方

ソフトウェア プロバイダーの評価:プロセス

企業向けの新規または既存のソフトウェア プロバイダーを査定および評価する際は、本バイヤーズガイドを使用することをお勧めします。製品およびカスタマー エクスペリエンスに関する正式な情報提供要請 (RFI) をプロバイダーに対して行うための評価フレームとしては、市場調査を使用できます。これにより、RFI を作成する際のサイクル時間が短縮されます。以下に挙げる手順が、可能な限り最良の結果をもたらすためのプロセスです。

1. ビジネス ケースと目標を定義する。

投資のミッションとビジネス ケース、および組織的および技術的な取り組みに期待される成果を定義します。

2. ビジネス ニーズを特定する。

ビジネス要件を定義すると、人材、プロセス、情報、テクノロジーに関して必要な能力や機能を具体的に特定できます。

3. 必要な役割や責任を評価する。

企業の経営幹部から現場スタッフに至るまでのあらゆるレベルで、成功に必要な個人を特定し、それぞれのニーズを判断します。

4. プロジェクトのクリティカル パスの概要をまとめる。

何をどのような順序で行う必要があるか、誰が行うか。この概要では、プロジェクト計画の各ステップで、前のステップに対する依存関係を明確にする必要があります。

5. テクノロジーに対するアプローチを特定する。

企業の要件に最も合った、ビジネスおよびテクノロジーに対するアプローチを決定します。

6. ソフトウェア プロバイダーの評価基準を確立する。

評価基準としては、製品エクスペリエンスを利用します。具体的には、適応性、機能性、管理しやすさ、信頼性、使いやすさ、カスタマー エクスペリエンス (TCO/ROI と妥当性) です。

7. テクノロジーを適切に評価および選択する。

テクノロジー評価基準のカテゴリに、企業の優先事項を反映した重み付けを行い、ソフトウェア プロバイダーと製品の候補を絞り込みます。

8. ビジネス イニシアティブ チームを立ち上げてプロジェクトを開始する。

プロジェクトのリーダーと計画を作成し、その計画をタイムライン、優先順位、リソースに基づいて実施するために必要なチームのメンバーを特定します。



調査結果

この調査で評価した製品にはいずれも豊富な機能が備わっていますが、ソフトウェア プロバイダーが提供しているすべての機能がさまざまなタイプの従業員にとって同じように価値があるわけでも、継続的な製品管理に必要なすべての要素をサポートしているわけでもありません。それどころか、機能が多すぎて不必要に複雑になり、企業に悪影響を与える可能性さえあります。そうは言っても、製品に多くの機能があることは利点であるとも考えるかもしれません。特に、一部の機能が企業の確立された手法と相性が良かったり、新しいソフトウェア購入を検討するきっかけとなっていたりするならなおさらでしょう。

その場合、機能やソフトウェア プロバイダーの査定以外の要因が意思決定の決め手となる可能性があります。たとえば、企業に予算の制約がある場合、TCO の評価によってプロバイダーの優先順位が変わることもあり得ます。このような場合は、バリュー インデックス手法と適切なカテゴリの重み付けを利用することで、自社の具体的なニーズに最適なソフトウェア プロバイダーや製品を決定できます。

全カテゴリにおけるソフトウェア プロバイダーの総合評価

調査では、Oracle がリストの首位の座を占め、次いで InterSystems と Google Cloud が続く結果となっています。各カテゴリでは、上位 3 社のプロバイダーがリーダーとして選定されます。Oracle は 6 つのカテゴリでリーダーに選定され、InterSystems は 4 つのカテゴリ、Google Cloud は 3 つのカテゴリ、Actian、IBM、SAP は 2 つのカテゴリ、AWS、Microsoft、Salesforce は 1 つのカテゴリでリーダーに選定されています。

以下に記載する、全体的な調査結果を表すグラフでは、製品エクスペリエンスの評価を x 軸に、カスタマー エクスペリエンスの評価を y 軸に示し、ソフトウェア プロバイダーの評価と分類を視覚的に理解できるようにしています。5 つの製品カテゴリをまとめて表す軸では、製品エクスペリエンスでの加重成績が大きいソフトウェア プロバイダーほど右側に配置されています。一方、縦軸での位置を決定しているのは、カスタマー エクスペリエンスの 2 つのカテゴリでの成績と重みです。つまり、このグラフで右上に位置しているソフトウェア プロバイダーのほうが、左下に位置しているソフトウェア プロバイダーよりも優れています。

この調査ではソフトウェア プロバイダーを「信頼」、「模範的」、「優秀」、「革新的」という 4 つの総合評価カテゴリのいずれかに分類しています。このグラフは、重み付けされたうえでの総合的な成績によってプロバイダーを分類したものです。

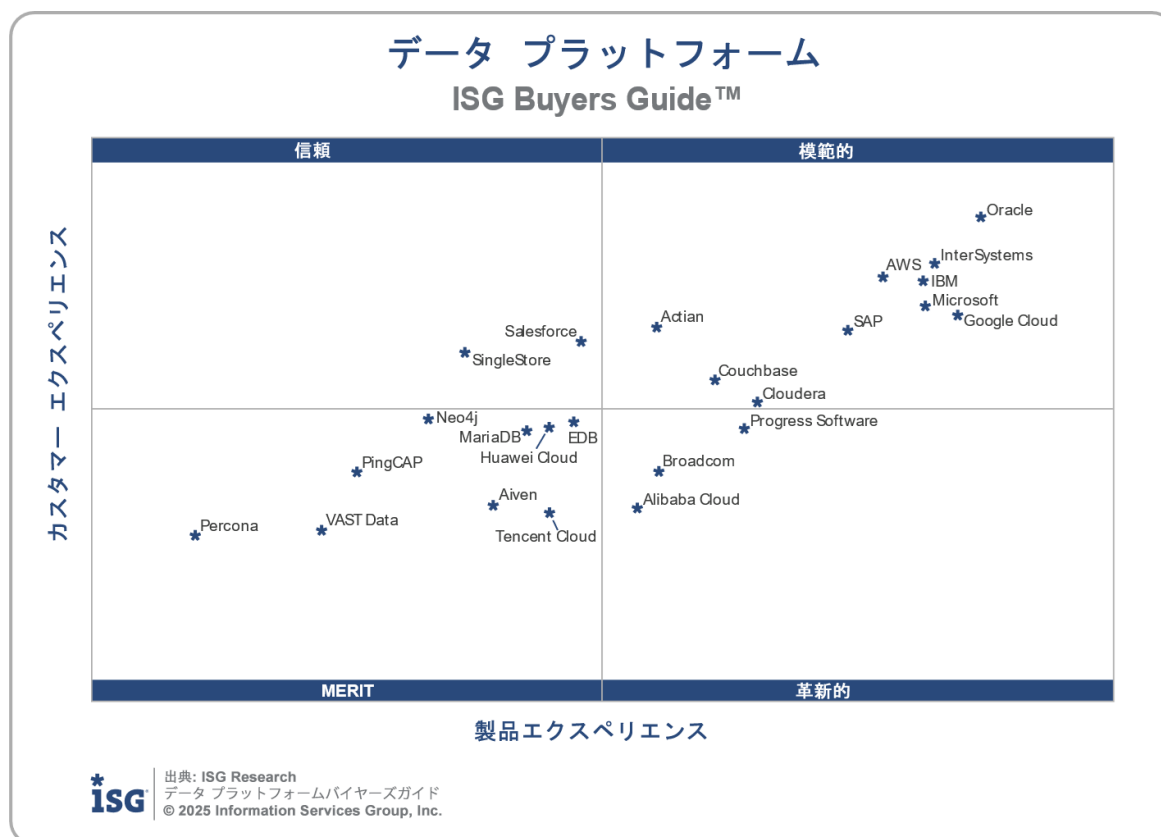
データ プラットフォーム

総合

プロバイダー	評価	成績
Oracle	A	リーダー 88.7%
InterSystems	A-	リーダー 86.9%
Google Cloud	A-	リーダー 86.8%
IBM	A-	86.5%
Microsoft	A-	85.8%
AWS	A-	85.3%
SAP	A-	83.1%
Cloudera	B++	78.7%
Progress Software	B++	78.0%
Couchbase	B++	77.8%
Actian	B++	76.7%
Broadcom	B+	74.5%
Salesforce	B+	73.1%
Alibaba Cloud	B+	72.9%
EDB	B+	72.5%
Huawei Cloud	B+	71.3%
SingleStore	B+	70.3%
MariaDB	B+	70.1%
Tencent Cloud	B+	69.3%
Aiven	B+	69.1%
Neo4j	B	67.8%
PingCAP	B	64.7%
VAST Data	B	63.2%
Percona	B-	58.3%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



模範的:「模範的 (右上)」として分類されているソフトウェア プロバイダーは、製品エクスペリエンスとカスタマー エクスペリエンスの要件を全体的に満たしています。「模範的」と評価されたプロバイダーは、Actian、AWS、Cloudera、Couchbase、Google Cloud、IBM、InterSystems、Microsoft、Oracle、SAP です。

革新的:「革新的 (右下)」として分類されているソフトウェア プロバイダーは、製品エクスペリエンスの要件を全体的に満たしたものの、カスタマー エクスペリエンスでの分野では最高水準に達しませんでした。「革新的」と評価されたプロバイダーは、Alibaba Cloud、Broadcom、Progress Software です。

信頼:「信頼 (左上)」として分類されているソフトウェア プロバイダーは、カスタマーエクスペリエンスの要件を全体的に満たしたものの、製品エクスペリエンスの分野では最高水準に達しませんでした。「信頼」と評価されたプロバイダーは、Salesforce と SingleStore です。

優秀:「優秀 (左下)」として分類されているソフトウェア プロバイダーは、カスタマーエクスペリエンスまたは製品エクスペリエンスにおける「信頼」、「模範的」、または「革新的」の評価カテゴリでしきい値を超えていませんでした。「優秀」と評価されたプロバイダーは、Aiven、EDB、Huawei Cloud、MariaDB、Neo4j、Percona、PingCAP、Tencent Cloud、VAST Data です。



注意する点として、グラフ上でプロバイダーの位置が近接していても、評価対象のパッケージが機能的に同一であることや、すべての企業または特定のプロセスでの使用に同等に適していることを意味するわけではありません。各企業におけるデータ プラットフォームへの対処方法には共通する点が多くあります。しかしその一方で、企業が特定のニーズに対するソフトウェア プロバイダーの適合性を左右する機能をどう扱うかについては、多くの独自性や違いがあります。

当社では企業に対し、組織の要件に基づいてソフトウェア プロバイダーを査定および評価し、プロバイダーと製品の社内評価を補うものとしてこの調査結果を使用するよう推奨しています。



製品エクスペリエンス

企業のニーズに対応できる製品を調査するプロセスは、包括的でなければなりません。バリュー インデックス手法では、製品エクスペリエンスと、それが企業のオンボーディング、構成、運用、使用、保守管理のライフサイクルに合ったものであるかを調査します。多くの場合、ソフトウェア プロバイダーが受ける評価は、そのプロバイダーが提供している製品だけを対象としているわけではありません。むしろ、プロバイダーの市場での活動状況や将来の展望を対象としたものです。しかし活動状況や展望はプロバイダーの運営状況を表すものであり、企業の要件ではないため、こうした評価は完璧ではありません。完全な製品エクスペリエンスを重視するソフトウェア プロバイダーが増えるにつれ、評価は堅牢なものになっていくはずです。

製品エクスペリエンスの調査結果は、基礎となる特定のカテゴリでの加重成績に基づき、総合評価の80% (5 分の 4) を占めるとして評価されます。各カテゴリに割り当てられた重要度は、使いやすさ (12.5%)、機能性 (30%)、信頼性 (12.5%)、適応性 (12.5%)、管理しやすさ (12.5%) です。この重み付けの影響は、この調査での総合評価に現れています。製品エクスペリエンスのリーダーには、Oracle、Google Cloud、InterSystems が選定されました。リーダーとして選定されてはいませんが、Microsoft と IBM も、企業の幅広い製品エクスペリエ

データ プラットフォーム 製品エクスペリエンス

プロバイダー	評価	成績
Oracle	A	リーダー 71.4%
Google Cloud	A	リーダー 70.7%
InterSystems	A-	リーダー 69.9%
Microsoft	A-	69.6%
IBM	A-	69.5%
AWS	A-	68.6%
SAP	A-	67.4%
Cloudera	B++	64.0%
Progress Software	B++	63.5%
Couchbase	B++	62.6%
Broadcom	B++	60.7%
Actian	B++	60.7%
Alibaba Cloud	B++	60.0%
Salesforce	B+	58.1%
EDB	B+	57.9%
Tencent Cloud	B+	57.1%
Huawei Cloud	B+	57.1%
MariaDB	B+	56.4%
Aiven	B+	55.3%
SingleStore	B	54.3%
Neo4j	B	53.1%
PingCAP	B	50.7%
VAST Data	B-	49.6%
Percona	B-	45.4%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



製品の適応性

このカテゴリは、従業員、デバイス、ビジネス、プロセス、アプリケーション、およびデータ間の完全な連携を維持しながら、構成とカスタマイズによって製品とテクノロジーをどの程度企業の仕様に適応可能であるかを査定するものです。適応性は、他の内部および外部システムとすぐに統合できるかどうか（たとえば、複数のプロセスとシステムにおいてデータと情報をどの程度安全に統合できるか）という点と、同期と移行をサポートする双方向のデータ フローに対応できるかどうかという点にも関係します。さらに、リソースや改善に対してソフトウェア プロバイダーが行っている投資も考慮されます。

調査では、適応性を総合評価の 12.5% として重み付けしています。このカテゴリでリーダーとなったのは、InterSystems、Oracle、Salesforce です。リーダーとして選定されてはいませんが、SAP も、企業の幅広い適応性の要件を満たしていることが判明しています。

適応性は、企業の要件に関連する製品の柔軟性と相互接続性を決定することから、ソフトウェア プロバイダーの重要な評価指標となります。また、適応性により、既存の、そして将来的に現れるであろう各種のプラットフォームやクラウド コンピューティング環境でエンタープライズ ソフトウェアを運用することが可能になります。

適応性カテゴリで高い評価を得たソフトウェア プロバイダーは、事業活動を最適化するための情報を準備して使用することの重要性を理解しています。こうしたプロバイダーは、これらの分野における特定のカスタマイズおよび統合のサポート要件を満たすため、企業が業務プロセス、ワークフロー、アプリケーション全体でデータを処理できるように支援することができます。

データ プラットフォーム

適応性

プロバイダー	評価	成績
InterSystems	A	リーダー 91.0%
Oracle	A	リーダー 90.8%
Salesforce	A-	リーダー 87.5%
SAP	A-	87.4%
Microsoft	A-	86.9%
Tencent Cloud	A-	86.9%
Couchbase	A-	85.0%
IBM	A-	84.9%
Google Cloud	A-	84.5%
AWS	A-	82.9%
MariaDB	B++	81.1%
Action	B++	79.7%
EDB	B++	77.2%
Progress Software	B+	74.2%
Huawei Cloud	B+	74.2%
Broadcom	B+	74.2%
Cloudera	B+	74.1%
Alibaba Cloud	B+	73.9%
Neo4j	B	67.8%
SingleStore	B	64.8%
PingCAP	B-	59.4%
Aiven	B-	58.5%
Percona	B-	57.0%
VAST Data	C++	53.6%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



製品の管理しやすさ

管理しやすさは、どの程度まで技術的かつビジネスごとに製品を管理できるか、そして製品の管理、保護、ライセンス付与、サービス レベル アグリーメント (SLA) でのサポートにどれだけ対応できるかという点で評価されます。適応性に関しては、ユーザー ID、役割、アクセスに関してテクノロジーに統合されているプライバシーおよびセキュリティ規定の柔軟性と有効性、監査とコンプライアンスのサポート範囲、ソフトウェア プロバイダーから提供されるライセンスやサブスクリプションも考慮すべき重要な点です。さらに、リソースや改善に対してプロバイダーが行っている投資も考慮されます。

調査では、管理しやすさを総合評価の 12.5% として重み付けしています。このカテゴリでリーダーとなったのは、Oracle、InterSystems、Actian です。リーダーとして選定されてはいませんが、AWS も、企業の管理しやすさの幅広い要件を満たしていることが判明しています。

管理しやすさは、ソフトウェア プロバイダーの製品を企業内でのライフサイクル全体を通して管理およびサポートできるかどうかを示す重要な評価指標です。また、管理しやすさによって、エンタープライズ ソフトウェアの全体的な効率性、コンプライアンス、セキュリティも確保されます。

これらの評価基準におけるソフトウェア プロバイダーの成績は、ビジネスおよびテクノロジーの管理について調べる際には特に重要となります。成績が低かったプロバイダーは、データ管理の課題に加え、データ プライバシーおよびデータ セキュリティ機能に関する詳細情報を提供するのが難しいという課題を抱えていました。企業の洞察と知識はデータから引き出されるため、情報セキュリティの重要性はいくら強調しても強調しすぎることはありません。重要性が高まっている管理の簡素化は不可欠であり、あらゆるソフトウェア プロバイダーの評価において優先事項とすべきです。

データ プラットフォーム

管理しやすさ

プロバイダー	評価	成績
Oracle	A	リーダー 92.5%
InterSystems	A	リーダー 90.8%
Actian	A-	リーダー 86.6%
AWS	A-	86.4%
Tencent Cloud	A-	86.0%
Microsoft	A-	85.1%
Cloudera	A-	84.3%
Salesforce	A-	84.1%
IBM	A-	83.6%
Google Cloud	A-	83.2%
Alibaba Cloud	A-	81.7%
SAP	B++	80.3%
MariaDB	B++	79.8%
Huawei Cloud	B++	79.3%
Progress Software	B++	78.4%
Broadcom	B++	77.5%
Couchbase	B++	77.5%
EDB	B+	72.8%
PingCAP	B+	71.0%
Neo4j	B+	70.2%
Aiven	B+	69.7%
SingleStore	B	68.2%
VAST Data	B	66.4%
Percona	B-	60.7%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



カスタマー エクスペリエンス

製品とテクノロジーを確実に成功に導くには、ソフトウェア プロバイダーと顧客の関係を重視することが不可欠です。ソフトウェア プロバイダーとの連携を満足のいくものにするためには、企業がソフトウェア プロバイダーと協力して提供するカスタマー エクスペリエンスとカスタマー ライフサイクル全体の改善が必要になります。最高顧客責任者を置いているテクノロジー プロバイダーは、顧客関係への投資を増やし、顧客の成功をより重視する傾向があります。最高顧客責任者には、ウェブサイトで、また購入プロセスとカスタマー ジャーニーにおいて、自社のカスタマー エクスペリエンスへの取り組みを明確に知らせる責任があります。

ソフトウェア プロバイダーと顧客との間の関係に対する取り組みと価値のフレームワークには、カスタマー エクスペリエンスが関連してきます。したがって、調査結果では、カスタマー エクスペリエンスは基礎となるカテゴリでの加重成績に基づき、総合評価の 20% (5 分の 1) として評価されています。評価カテゴリには、妥当性 (10%) と TCO/ROI (10%) の 2 つがあります。これらのカテゴリは、調査全体に対する重要性を表すように重み付けされています。

カスタマー エクスペリエンス カテゴリでの集計された加重成績で最も高い評価を得たソフトウェア プロバイダーは、Oracle、InterSystems、AWS です。これらのカテゴリにおけるリーダーは、顧客のニーズに対する取り組みと献身を最も明確に伝えています。リーダーとして選定されてはいませんが、IBM も、企業のカスタマー エクスペリエンスの幅広い要件を満たしていることが判明しています。

このカテゴリで良い成績を上げていないソフトウェア プロバイダーは、顧客の成功を実証したり、カスタマー エクスペリエンスに対する企業の取り組みを詳しく説明したりする顧客事例を十分に提供できていませんでした。ソフトウェア プロバイダーを選択することは、企業が継続的に投資することを意味します。したがって、包括的な評価の一つとして、プロバイダーによるカスタマー エクスペリエンスのサポート方法も検討する必要があります。

データ プラットフォーム

カスタマー エクスペリエンス

プロバイダー	評価	成績
Oracle	A	リーダー 17.8%
InterSystems	A-	リーダー 17.1%
AWS	A-	リーダー 16.9%
IBM	A-	16.8%
Microsoft	A-	16.4%
Google Cloud	A-	16.3%
Action	B++	16.1%
SAP	B++	16.0%
Salesforce	B++	15.9%
SingleStore	B++	15.7%
Couchbase	B++	15.3%
Cloudera	B+	14.9%
Neo4j	B+	14.7%
EDB	B+	14.7%
Huawei Cloud	B+	14.6%
MariaDB	B+	14.6%
Progress Software	B+	14.5%
Broadcom	B+	13.9%
PingCAP	B+	13.9%
Aiven	B	13.4%
Alibaba Cloud	B	13.3%
Tencent Cloud	B	13.3%
VAST Data	B	13.0%
Percona	B	12.9%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



ソフトウェア プロバイダーの TCO/ROI

TCO/ROI カテゴリでは、製品の戦略的価値、総所有コスト、総所有利益など、ソフトウェア プロバイダーがどの程度効果的にビジネス ケースを実証しているかを査定するための評価基準が適用されます。これらの基準には、顧客が TCO と ROI を評価できるようにソフトウェア プロバイダーが提供しているツールや文書の評価と、その評価を裏付ける投資およびサービスとしてソフトウェア プロバイダーが挙げているものも含まれます。さらに、リソースや改善に対してプロバイダーが行っている投資も考慮されます。

調査では、TCO/ROI を総合評価の 10% として重み付けしています。このカテゴリでリーダーとなったのは、InterSystems、Oracle、AWS です。

ソフトウェア プロバイダーのカスタマー エクスペリエンスに対する取り組みと、プロバイダーの製品のデプロイと定着化に伴う費用がその価値に見合っているかどうかを判断する際には、TCO/ROI が重要な評価指標となります。プロバイダーは、企業の現在および将来の目標をサポートできることも実証する必要があります。

このカテゴリで高い評価を得たソフトウェア プロバイダーは、ビジネス ケースを効果的に構築して投資資金を獲得するために必要な TCO/ROI 関連のサポートを、購入者と顧客に提供しています。高い評価を得られなかったソフトウェア プロバイダーは、企業が適切な購入決定を下すために必要とするツールとドキュメントを提供するのに苦戦していました。

データ プラットフォーム TCO/ROI

プロバイダー	評価	成績
InterSystems	A	リーダー 87.9%
Oracle	A-	リーダー 87.4%
AWS	A-	リーダー 84.9%
IBM	A-	83.4%
Google Cloud	A-	82.3%
Microsoft	B++	80.6%
SAP	B++	79.2%
Salesforce	B++	78.6%
SingleStore	B++	77.8%
Neo4j	B++	76.9%
Action	B++	76.2%
Progress Software	B+	74.1%
Couchbase	B+	72.7%
MariaDB	B+	72.1%
Cloudera	B+	71.3%
Huawei Cloud	B+	70.9%
Broadcom	B+	70.2%
Aiven	B+	69.9%
EDB	B	68.8%
Tencent Cloud	B	68.7%
Alibaba Cloud	B	67.8%
VAST Data	B	67.1%
PingCAP	B	66.3%
Percona	B	62.8%



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



InterSystems

会社と製品プロファイル

InterSystems IRIS、v.2025.1、2025 年 5 月リリース

「InterSystems は、優れたサービスとカスタマー サクセスという 2 つの主な信念を基に設立されました。当社は、ヘルスケア、金融サービス、物流など、重要なニーズを伴う業界向けのデータソリューションの主要プロバイダーとして、当社のテクノロジーが人々の命と生活を支えるものであると自覚しています。InterSystems IRIS は、完全なクラウドファーストのデータ プラットフォームです。IRIS では、データとアプリケーションのサイロを解消する高性能な AI 対応のアプリケーションを簡単に構築してデプロイできます。」 - InterSystems

まとめ

当社の分析では、InterSystems は「模範的」として分類され、成績は 86.9% で総合評価は A マイナスとなっています。InterSystems は製品エクスペリエンスでの成績が 87.3% で A マイナスの評価を得ていますが、総合評価で良い成績を収めた理由の一部には、適応性があります。TCO/ROI での成績 87.9% により、InterSystems はカスタマー エクスペリエンスにおいては成績 85.3% で A マイナスの評価を得ています。InterSystems は総合的なリーダーに選定されただけでなく、製品エクスペリエンス、適応性、機能性、管理しやすさ、カスタマー エクスペリエンス、TCO/ROI の分野でもリーダーとして選ばれています。

課題

InterSystems のカスタマー エクスペリエンスでの A マイナスの評価は、妥当性に対する A マイナスの評価が影響しています。妥当性については、価格設定のアクセシビリティに改善の余地があります。製品エクスペリエンスの評価に影響を与えているのは、アクセシビリティ機能に改善の余地があるとされた、使いやすさに対する A マイナスの評価です。

強み

InterSystems の製品エクスペリエンスでの評価は A マイナスで、高成績を納めています。さらに注目すべき点として、事前構成されたカスタマイズ オプションの有用性により、適応性では評価 A を獲得しています。InterSystems のカスタマー エクスペリエンスでの評価も A マイナスです。TCO/ROI については、見込み顧客が投資のビジネス ケースを準備する際に提供するガイダンスの品質とリソースを理由に評価 A を獲得しました。

データ プラットフォーム

InterSystems

模範的なプロバイダー

カテゴリ	成績	評価
総合	リーダー 86.9%	A-
製品	リーダー 87.3%	A-
適応性	リーダー 91.0%	A
機能性	リーダー 86.2%	A-
管理しやすさ	リーダー 90.8%	A
信頼性	86.8%	A-
使いやすさ	83.9%	A-
カスタマー	リーダー 85.3%	A-
TCO/ROI	リーダー 87.9%	A
妥当性	82.7%	A-



出典: ISG Research
データ プラットフォームバイヤーズガイド
© 2025 Information Services Group, Inc.



付録: ソフトウェア プロバイダーの参加

2025 年のデータ プラットフォーム向け ISG バイヤーズガイド™ へのソフトウェア プロバイダーの参加要件は、財務的および倫理的に良好な状態にあること、年間収益または予測収益が 5,000 万ドル以上であることが独立した情報源によって検証されていること、少なくとも 2 つの大陸で製品を販売しサポートを提供していること、かつ、従業員が 100 人以上であることです。また、関連事業部門の主要収益源がソフトウェアに関連するものであること、過去 12 か月で少なくとも 1 回、ソフトウェアのメジャー リリースを行っていることも要件となっています。

データ プラットフォームは、企業全体にわたってデータの保存、処理、分析、提示を体系化して管理するための環境を提供します。ビジネスの運営に使用される業務アプリケーションだけでなく、ビジネスを評価するための分析アプリケーションもサポートし、これらのアプリケーションを有効に活用できるようにするデータ プラットフォームは、運用効率において重要な役割を果たします。

このデータ プラットフォームバイヤーズガイドで対象とする製品は、従業員向けと顧客向けの業務アプリケーション (財務、リソース計画、人事、顧客管理/カスタマーエクスペリエンス、電子商取引、サプライチェーンなど) や分析ワークロード (ビジネス インテリジェンス、人工知能、データサイエンス) をサポートするものであることが要件となります。

製品が汎用のデータ プラットフォーム、データベース、データベース管理システム、データウェアハウス、データレイク、またはデータレイクハウスとして販売されている製品であり、本バイヤーズガイドでの機能性の基準に対応付けられる、次の機能分野に対応することも要件となっています。

- 中核的なデータベース機能 (データの永続化、管理、処理、クエリ)
- データベース管理者向け機能
- 開発者向け機能
- データエンジニア向け機能
- データアーキテクト向け機能

この調査は、ソフトウェア プロバイダーのパッケージ化や価格設定の詳細には影響されないよう意図されています。企業が運営する実世界の環境を表現するため、調査の対象には、関連する個別のモジュールやアプリケーションが含まれる可能性のある製品スイートまたはパッケージを提供するプロバイダーも含まれています。ソフトウェア プロバイダーが一般市場向けに製品のマーケティング、販売、開発を積極的に行っており、そのプロバイダーのウェブサイトに当該製品が調査対象に含まれていることが反映されている場合、そのプロバイダーは自動的に調査対象として評価されます。

関連するデータ プラットフォーム製品を提供し、参加要件を満たしているすべてのソフトウェア プロバイダーが、無償で評価プロセスに参加するよう招待されました。

当社の選定基準を満たしているものの、バイヤーズガイドに完全に参加しているわけではないソフトウェア プロバイダーについては、公開されている情報のみに基づいて査定しました。こうした査定は分類と評価に大きな影響を与える可能性があるため、これらのプロバイダーを評価する際にはさらに精査することをお勧めします。



評価対象の製品

プロバイダー	製品名	バージョン	リリース 年/月
Actian	Actian Data Platform	630.0.18	2024 年 4 月
	Actian Ingres	12.0	2025 年 5 月
Aiven	Aiven for ClickHouse	24.8	2025 年 3 月
	Aiven for PostgreSQL	17.5	2025 年 5 月
Alibaba Cloud	Alibaba Cloud MaxCompute	該当なし 2.0.16.8.3.0	2025 年 3 月
	Alibaba Cloud PolarDB for PostgreSQL		2025 年 4 月
AWS	Amazon SageMaker	該当なし パッチ 190 17.5	2025 年 5 月
	Unified Studio		2025 年 5 月
	Amazon Redshift		2025 年 5 月
	Amazon RDS for PostgreSQL		2025 年 5 月
Broadcom	VMware Tanzu Greenplum	7.4.1	2025 年 4 月
	VMware Tanzu for Postgres	v.17.4	2025 年 5 月
Cloudera	Cloudera on cloud	該当なし	2025 年 4 月
Couchbase	Couchbase Capella	該当なし	2025 年 5 月
EDB	EDB Postgres AI	2025 年第 1 四半期	2025 年 3 月
Google Cloud	Google BigQuery	該当なし	2025 年 5 月
	Google AlloyDB for PostgreSQL	該当なし	2025 年 5 月
Huawei Cloud	Huawei Cloud Data Warehouse Service	該当なし 該当なし	2025 年 2 月
	Huawei Cloud Relational Database Service for PostgreSQL		2025 年 2 月
IBM	IBM watsonx.data	2.1.2	2025 年 4 月
	IBM Db2	12.1.1	2025 年 3 月
InterSystems	InterSystems IRIS	2025.1	2025 年 5 月
MariaDB	MariaDB Enterprise ColumnStore	23.02.13	2025 年 3 月
	MariaDB Enterprise Server	11.4.5-3	2025 年 3 月



Microsoft	Microsoft Fabric Data Warehouse Microsoft Azure SQL	該当なし 該当なし	2025 年 4 月 2025 年 5 月
Neo4j	Neo4j AuraDB	2025.05	2025 年 5 月
Oracle	Oracle Autonomous Database	該当なし	2025 年 5 月
Percona	Percona Distribution for PostgreSQL	17.5.1	2025 年 5 月
PingCAP	PingCAP TiDB Cloud	該当なし	2025 年 5 月
Progress Software	Progress MarkLogic Server	11.3.1	2025 年 4 月
Salesforce	Salesforce Data Cloud	Summer '25	2025 年 5 月
SAP	SAP Business Data Cloud SAP HANA Cloud	1.0 QRC 1/2025	2025 年 5 月 2025 年 3 月
SingleStore	SingleStore Helios	該当なし	2025 年 5 月
Tencent Cloud	Tencent Cloud TCHouse-C TencentDB for PostgreSQL	該当なし 該当なし	2025 年 2 月 2025 年 2 月
VAST Data	VAST Data Platform	5.3.0 -SP8	2025 年 5 月



有望なプロバイダー

調査と分析の結果、本バイヤーズガイドへの参加基準を満たしていないと判断されたソフトウェア プロバイダーは、ここには掲載していません。以下にリストしているのは、「有望なプロバイダー」です。

プロバイダー	製品	年間収益 5,000 万ドル 以上	2大陸での 事業展開	従業員 100人以上	一般提供
ClickHouse	ClickHouse Cloud	なし	あり	なし	あり
Databricks	Databricks Data Intelligence Platform (Databricks Lakebase)	あり	あり	あり	なし
GridGain	GridGain Unified Real- Time Data Platform	なし	あり	あり	あり
Hazelcast	Hazelcast Cloud	なし	あり	あり	あり
Imply	Imply Polaris	なし	あり	あり	あり
Snowflake	Snowflake Platform (Snowflake Postgres)	あり	あり	あり	なし
TigerGraph	TigerGraph Cloud	なし	あり	あり	あり



ISG Software Research and Advisory について

ISG Software Research and Advisory では、テクノロジー業界における市場の調査と取材を行い、企業、ソフトウェアおよびサービス プロバイダー、投資会社に情報を提供しています。ISG バイヤーズガイドが提供するソフトウェアのカテゴリおよびプロバイダーに関する洞察は、RFI/RFP プロセスでソフトウェア プロバイダーを評価、検証、選択するために使用できます。

ISG Research について

ISG Research は、市場動向と革新的テクノロジーを焦点とした定期的な調査、アドバイザリー、コンサルティング、経営者向けイベント サービスを提供しています。ISG Research は、企業が成長を加速して、さらなる価値を創出できるように有用なガイダンスを提供します。ISG Research のサブスクリプションについて詳しくは、research.isg-one.com にアクセスしてください。

ISG について

ISG (Nasdaq: [IUI](#)) は、AI を中心としたテクノロジーの調査および顧問サービスを提供しているグローバル企業です。ISG は、世界のトップ 100 企業のうち 75 社を含む 900 社以上のクライアントが信頼しているパートナーであり、長年、テクノロジーおよびビジネス サービスの提供においてリーダーの座を維持しています。現在は、AI を活用して卓越した業務と成長の加速を実現できるよう組織を支援する最前線に立っています。2006 年に設立された ISG は、独自の市場データ、プロバイダー エコシステムに関する深い知識、そして世界中で連携している 1,600 人の専門家の知識で知られており、クライアントがテクノロジー投資の価値を最大化できるよう支援しています。